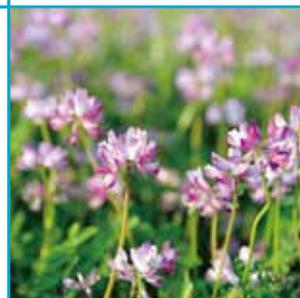


WIN CONCORD
ウィンコード

NEWSLETTER

2019
vol.29



留学生と共に学ぶ

監事 松下 勤

私が WIN コンコードに入会したのは 1992 年 (平成 4 年) で、当時和歌山大学の留学生は 29 人でした。その後年を追うごとに留学生が増え、最近では毎年 150 人を超す留学生が和歌山大学に学んでいます。多くは和歌山市内に住んでいるので、WIN コンコードでは、始めの頃は、アパート探しから電気製品等生活用品を貸与することで、留学生の和歌山での生活が少しでも快適に過ごせるようにと一般の方々にも協力いただきながら活動してきました。

今は人数が多くて当初のようにすべての留学生に接することはできませんし、電気製品なども留学生が自ら調達することが多くなりましたが、希望する留学生とは和歌山市駅近くにある WIN コンコードの事務所で交流や支援を行っています。

WIN コンコードは 10 年前に NPO の登録をしましたが、交流行事としては、4 月には新入生歓迎会を兼ねた和歌山城の花見、5 月の総会と交流パーティー、10 月に開催する「留学生の故郷を語る集い」、12 月の八朔狩りと鍋パーティーなどの他、企業訪問や県内の名所バス旅行を会として実施しています。この他 WIN コンコード会員個々の家庭に招待したり (ホストファミリー制度)、地域の祭などの行事に留学生を招くなど、留学生に

とって和歌山に住んでいる間に、和歌山のこと、日本のことを身をもって理解し、地域の人々との交流を深めてもらうよう企画するのが会の趣旨であり、私も活動に参加しているところです。

留学生の中には大学での専攻学習の他に日本の歴史や文化、日本語などを自ら学びたいと希望する学生もいて、私は自分の得意科目を生かしてそのような留学生とのレッスンを担当しています。これまで中国、韓国、インドネシア、シンガポールなどの留学生と一緒に勉強してきました。レッスンはもちろん日本語ですが、日本の歴史や文化、社会について説明する一方で、留学生から出身国について教わることもたくさんあり、私にとっても勉強になるレッスンです。過去には毎週有田から和歌山に出向いたこともありましたが、今は月に 1 回 WIN の事務所を教室にモンゴルから和大的システム工学部に留学している学生と一緒に日本の歴史と彼の希望で新渡戸稲造の「武士道」の CD や新聞記事を使った日本語のレッスンを行っています。モンゴルについても日本に近く関わりの深い国でありながら知らないことが多く、レッスンしながらモンゴルのことを学べるのもまた私の楽しみです。彼が日本語と日本についての知識を共に学び、将来国に帰ったら役立ててくれるようお願いながらレッスンを続けています。

今まで共にレッスンした留学生が卒業後、就職した日本の企業やお国の仕事で活躍している便りをいただくのは私にとっても WIN コンコードにとってもこの上もない喜びです。



日本とブラジルの友好関係

ルジミラ (ブラジル)

9歳のころ、私は家族で日本に引越しました。来日するまでに日本語や日本文化について何も知らなかったの、全く知らない国に引越するのは怖かった。しかし、滋賀県に住んでいた2年間に小学校の先生方のおかげで、日本人の優しさと日本の素晴らしさがわかってきた。それにより、日本が好きになってブラジルへ帰ったら高校を卒業してから、日本語の教師になるために大学に入学することを決めた。

日本の伝統文化にも興味がでてきたので、入学したとき、ブラジルにある和太鼓のグループのメンバーになることにした。日本の太鼓の面白さと大切さがわかってきたので、太鼓がますます好きになった。太鼓のきっかけでできた友達と日本料理のイベントなどで演奏するのは楽しいと思った。

2017年に日本のアニメのイベントで私の和太鼓のグループと沖縄のエイサーのグループのメンバーたちが交流し、初めて沖縄のエイサーを体験した。そのときからエイサーに関心が高まって、ブラジル支部の琉球國祭り太鼓というエイサーのグループのメンバーとして活動している。

琉球國祭り太鼓というのは、1982年に沖縄の若者によって結成された太鼓のグループのことだ。祭り太鼓のブラジル支部は1995年に浦崎直秀先生によって結成された一つの支部で、現在はブラジル地区に10支部がある。日本国内に49の支部があり、ブラジル以外の5か国に28支部がある。

ブラジル地区のメンバーたちはイベントなどで祭り太鼓の演技で沖縄、及び日本の文化を広めており、遠祖の方々の歴史と文化を守っている。「時をこえ」や「年中口説」(ねんじゅうくどち)という曲の演技は日本国民の文化と歴史の保存の必要性を表している。

大学に入学してから日本とブラジルの関係は最近のものではないということがわかった。2015年は日本とブラジルの外交関係樹立の120周年(日伯関係)だった。1895年から友好関係で経済、文化や芸術などで両国の交流が行われている。

しかも、それだけでなく、去年はブラジル日本移



民110周年でブラジルのいろいろな地域でお祝いのイベントなどが行われた。1908年に初めて神戸港からブラジルのサン・パウロ州のサントス港に到着した781名の移民の文化や歴史を今もブラジルの方々も日系人の方々も守り続けている。だから現在のブラジルは海外で最も日系人が多い国らしい。

3年前からブラジル全国のイベントで日伯関係を祝い、去年の110周年記念式典には秋篠宮眞子様もご臨席になった。そのいくつかのイベントのおかげでブラジルに築かれた日本文化の大切さが伺える。ブラジルと日本の友好的な関係は、もう両国の歴史の大切な一部分になったと思うので、その歴史と文化の想起を大事に守るべきだ。

初めて日本文化を感じた9歳の私は心に残った思い出を今も尚守ろうとしている。そして、去年の10月から文部科学省から奨学金をいただいて日本語日本文化研修生として日本語などを勉強したり、日本文化を体験したり、日本の観光地へ旅行に行ったりしている。今回日本で様々な経験をし、思い出を作っている22歳の私はブラジルと日本の友好関係に大切な役割を果たしたいと思っている。そういう訳で、今、私はブラジルで日本語の勉強以外にも祭り太鼓のメンバーとして活動している。日本の文化と歴史は価値があると思うのでブラジルに築かれた日本文化を皆さんで守ってほしいものだ。

今年の9月、私の日本での留学生活が終わる。和歌山大学で学んだことを大事にしてブラジルに持って帰り、将来は頑張って仕事や趣味などでできるだけ日本と関係あることをしたいと思っている。今までできた思い出や学んだことをブラジルの方々に伝えていきたいと思う。

おばあさんの言葉

レベッカ（フランス）

私はレベッカと申します。フランスから来た交換留学生です。今日は私にとって一番大切な人についてお話ししたいと思います。その人は私のおばあさんです。

おばあさんは今年 83 歳になりました。現在は私があるパリの郊外に住んでいますが、おばあさんの生まれ故郷はブルターニュ地方です。

おばあさんは、その地域で育ちましたので先祖が話していたブルターニュ語が話せます。おばあさんの子供の時は、学校でフランス語を勉強していましたが、それでも家族や友達とはブルターニュ語で話していました。でもブルターニュ語は非常に古い言語なので、今フランスでは殆ど話されていません。この地域の一部の高齢者を除いて、この言語を話す人はいません。

20 世紀初頭以来、フランスの学校ではフランス語だけが許可されていました。当時の子供たちは罰せられるという苦痛のために、学校で彼らの地域の言語を話すことができませんでした。それ以来、ほぼ 100 年間この法律は続いています。

高校生の時、私がおばあさんに「ブルターニュ語を学びたいんだけど・・・」と言うと。おばあさんは「なぜブルターニュ語を勉強するの？誰もこの言葉を話せないよ。私は話せるけれどもね。」と言いました。でも先日、彼女は私に電話をかけてきました。そして「ブルターニュ語を話すことができる私の最後の友達が死んでしまったの。もうブルターニュ語を話せるのは、私一人になってしまった。」と言いました。

ブルターニュ地方



その時、いろいろなことが頭に浮かびました。ブルターニュ語があるからこそ、ブルターニュの歴史や文化があるのです。先祖が作り上げてきた歴史や文化とブルターニュ語は切り離せないのです。いつか、おばあさんも死んでしまうので、家族はみんなブルターニュ語と同時にこの文化も忘れてしまうでしょう。だから、私はフランスへ帰ったらブルターニュ語を勉強するつもりです。

私のように現在のフランスの多くの若者は、先祖の言語が消えるのを見たくないでしょうし、地域の言語を学びたいと思っています。

地域語の学習が 1992 年以来公立学校で可能になりました。フランスには正式な地域語の教師がないので、学校で地域の言語の授業を担当するのは、多くの場合地域の高齢者です。今では、地域の言語を教える高齢者の方に、言語の学士号を贈ることまでしています。

言語を学ぶことに加えて、生徒は地元の文化と歴史を学ぶことを奨励されます。フランスでは観光客の多い地域でも、また他の地域でも、標識の大部分はフランス語と地域の言語で書かれており、人々はその地域の言語や文化を守っていきようとしています。例えば、この上の写真では通りの名前がフランス語とブルターニュ語で書かれています。

和歌山でも和歌山弁を大事にしようとしている人々がいるようで本屋に行くと和歌山の方言の本が売られています。留学生の中にも私のように和歌山弁に関心のある学生も少なくありません。

皆さん！皆さんも地域の言語を忘れないように、是非、おばあさんやおじいさんとよく話してください。

和歌山にも和歌山弁があるからこそ、和歌山の文化や歴史があるのです。

先祖が作り上げた言葉と一緒に文化や歴史を守りましょう。

和歌山での一年間

ハー (ベトナム)

私は和歌山大学の交換留学生グエン・ホアン・ハーです。去年の3月にもう一人のベトナム人留学生と一緒に日本へ来ました。その頃は桜が満開でしたが、今年も桜がもうすぐ咲き始めます。あっという間に日本での一年間が経ちました。一年間を振り返ると、関西空港から和歌山へ来る道の沿道には本物の桜の花がたくさん咲いていました。バスの窓から外を見てひらひら舞っている桜の花を眺めていました。それは初めて見る光景でした。日本での景色は心を揺さぶるほど本当に綺麗でした。その時私は自分に向かって「やっと憧れの国に着いた。日本って自分の人生の新しい扉だよ。ハーさん、頑張れ!」と言いました。

初めて家族と離れて一人で住んでいる私ですが「これから1年間、どんな生活が始まるだろう?大丈夫かなあ〜」と少しの不安と大きな期待を胸に持っていました。

寮に到着した一週間後、和歌山大学で最初の授業を受け始めました。和歌山大学は山の上にあります。山道を登った最初の日には「絶対登られない!」と思ったほど大変でした。しかし時間が経って少しずつ慣れてきました。今は途中で休憩せずに山道を登れるようになりました。ベトナムにいた時、どこへでもバイクに乗っていたように、自転車に乗って山道を走りながら自然の景色をゆっくり眺めるのが好きです。虫の音を耳にして、太陽の光の下で咲いている綺麗な花々を目にして風を感じながらの一人旅は忙しい日常生活からちょっとした解放感が得られてとても気分がいいです。

生まれて初めて多くの国からの留学生と一緒に日本語と日本の文化を勉強したり、自国の文化を紹介したりしました。日本語が上手な人や日本語がまだ上手ではない人も、誰もが日本語を使って言いたいことを最後まで一所懸命伝えました。その姿を見て、自分に向かって「ハーさんも頑張れ!」と言いました。

授業だけでなく交流会にも参加することが出来ました。そこで多くの日本人のボランティア先生と出会う機会がありました。先生達はいつも日本語の言い方を指導したり観光地などを紹介したりしていました。特に困った時すぐに私のそばに来て手伝ってくれました。先生達のお世話のお陰で、



家族と離れて一人で住んでいるのに、日本の冬を過ごしていても心がより温かくなった感じです。今後どこへ行っても、この愛情は心の中に留まります。

日本へ来てから日本語だけでなく日本人の働き方など、日本の社会ルールも理解できるようになりました。去年の6月からお寿司屋さんでスタッフとして働き始め、今日まで8ヶ月が経ちました。日本人と一緒に働くのは初めてではありませんが、日本人の若者と働いたことは初めてです。お店で働き始めたばかりの時は本当に大変でした。私以外のスタッフの全員が日本人です。私は日本語が下手だし、まだ分からないことが多くありました。また私に説明してくれても聞き取れないし、自分の言いたいことも伝えられませんでした。だから日本人スタッフとのコミュニケーションも難しくなり、多くの迷惑をかけてしまいました。しかし、店の仲間は私が分かるように簡単な言葉で少しずついろんな事を教えたり、注文がいっぱい出た時や、ネタがどこにあるかわからない時など、すぐに私のところに来てサポートしてくれました。また、時間に余裕がある時、日本語の歌も教えてもらいました。お寿司屋で一緒に過ごしていたのは素晴らしい時間で、絶対忘れられません。

これまで11ヶ月ぐらい日本で生活を過ごし、日本へ来て親切な人に出会ったのは私にとって夢のような経験です。夢の中で憧れの国に着いて、多くの人に出会って、友達になったり伝統的な文化を体験したり、いろんな良いことを学んだりすることが出来ました。もし、またその夢を見たら、ずっとそのまま夢を見続け、起きたくありません。

最後に、先生達と友達のお陰で留学の一年間はとても素晴らしく、心の底から「どうもありがとうございます。」という言葉は私に言いたいです。そして、後輩の留学生にも「素敵な留学生生活を過ごしますように!」と伝えたいです。

幸運な就活ができた

王 嶠 (中 国)

日本は私にとって全く見知らぬ国ではなく、子供の頃は祖父から基本的な日本語の五十音を教えてもらっていました。日本のいろいろな風景の写真を見たり、日本の文化に関する話を聞いたりしていました。日本では、自分の人生の価値観を変えて、たくさんの新体験ができる場所として、高校を卒業してから、このことに憧れて日本に来ました。

日本は世界各国の経済ランキング上位として、国民全ての生活の中心は、努力する事と我慢する事が含まれているように思います。私も日本ではアルバイトと勉強する事が中心になり、このようにして自分の留学生活が始まりました。最初は日本語の普通の会話は出来ましたが、自分の臆病な性格や自信が不足していたので、アルバイト先での面接は不合格の場合が多かったです。それでも諦めることなく、自分自身のことを常に反省していました。今の私は、人と人のコミュニケーション時における話し方を見つけて、恥ずかしがる事が少なくなりました。また、自分の得意なところを拡大して、これまで順調に自分の目標を達成したので、だんだん自信を持つようになりました。

私は 2018 年 1 月に島精機製作所の見学会に参加したので、WIN コンコードの先生たちと知り合いになりました。その年の 3 月からほぼ毎週一回、WIN の先生が就職に関するエントリーシートの書き方や日本社会の常識と、社会人としてのルールを教えてくださいました。この間に、たくさんの日本語の文章を修正してもらいました。更に先生は 5 月になった時に「急いで決めないといけない。」と休暇村協会のパンフレットを持ちながら私に、「この自然豊かな環境で働くことが好きと貴方は言っていたから、ここで必ず内定を得るように頑張ってください。」と言われました。その時、私は就職活動の 3 月から 6 月のスケジュールについて、日本の就職活動は時間を配分することも重要だと理解しました。私は時間に関する意識が弱く、また次の機会があるかなあと思っていたので、あまり重要視していませんでした。しかし、私は以前に一回就職に失敗した経験があったから、なかなか働く時の辛さが忘れられなく、その繰り返しをしたくありませんでした。だから、先生が話したように本当にその時期に決めなければいけない



と気づき、それから真剣に休暇村協会のエントリーや面接に対応しました。それに大学院の専攻のおかげで、実際に自分が勉強した内容が協会の仕事に役立つことがあって、すごく嬉しくて喜んでおりました。

その後いろいろな会社に挑戦をしましたが、一般的に結果はよくなかったです。その時に、また WIN の先生たちが私を心配してくださり、私はこのままでは卒業論文を書く時間が足りないかもしれないと気になりながら、また先生たちと自分の就活進路について相談していました。先生たちは根気よく様々な困難な事項を解決してくれました。

私の学部学生の時代には WIN コンコードのような機関がなくて、自分も日本語の勉強に関しては、あまり良くありませんでした。それに日本の社会常識や生活習慣なども知りませんでした。就職試験を受ける時に他の人と大きな差があって、WIN の先生たちと知り合ってそのことが理解できたので、この良縁にはたいへん感謝しています。WIN コンコードでの経験は、自分の人生の中の大事なところに入り込んでいて、このほっこりする気持ちを忘れることは出来ません。

求職中の数か月間に沢山の日本の大手企業の説明会に参加して、会社の規模や商品について、世界の中で重要な役割を果たしていることに感動しました。それらの経験で私の視野も広がりました。

今後は正社員として日本の企業で働きますが、本当にこの国の社会の中に入れたことに、期待と興奮の気持ちでいっぱいです。当然、それに伴う様々な困難があり、挫折することもあるかもしれませんが、怖がらないようにチャレンジします。

これからの心構えとしては、大きな情熱を持って自分が努力を尽くし、皆さんに私を認めてもらえるよう、しっかりと仕事に取り組みます。

私が初めて外国を旅した思い出から

「何としても放って置けない歴史事実」に遭遇
柑芦会和歌山支部長 久山 稔

もう47年も前の事でした。当時私は36歳。私はある銀行の「人事部・研修課」の課長代理と言う初級管理役職に付いていた。戦後の高度経済成長時代で、人材育成施策に積極的に取り組んでいる時期でした。しかも当時は銀行ばかりでなく商社やメーカーも含め外国取引の拡大に目を向けている経済環境の中に在りました。関西経済連合会も各種団体や会社呼び掛け、若者達による東南アジアをめぐる船上研修団編成を企画したのです。幸いなことに、私が「その状況を経験・視察して来い。」と派遣される幸運を得たのです。

東京埠頭を出発し、故郷の「潮の岬沖」と言われる頃には酷い船酔いに悩まされながらも、二日後には食事も喉が通り、快適な船旅が始まりました。最初の訪問国はフィリピンでした。首都、マニラで初めて艦内整理や治安維持に付く現地の人達との接触が始まりました。双方、片言の英語や日本語で言葉を交える喜びは、経験したことのない感動でした。そのマニラでの見学コースに「モンテンルパ・日本人墓地」がありました。私の従兄がそのマニラで戦死したという事を知っていただけに、この地の訪問には深い思い入れがありました。小高い丘の上にある広いその墓地には、丸い自然石の墓石が何百となく並んでいました。それは太平洋戦争後、収容されていて戦争犯罪人とされてしまった現場の将校やそれに協力した民間人の墓石でした。その墓石群の片隅で、一人のお年寄りが座り込んで草刈り鎌で伸びた雑草を刈っていました。傍に寄って「有難う。」と日本語で云うと、お爺さんは私の顔をじっと見詰め、頷いたままその場を急いで離れて行きました。直感的に私は「日本人だ。」と思いました。

宿泊施設の「客船」の夜の会合で、この強烈な気持ちに皆に披瀝しました。日本のサラリーマンの年間所得の20分の一にも満たないと聞いていたマニラの状況の中で、彼は墓守をしてくれているのだ。その方の年収の例え3年分(約30万円)だけでも支援できないか。船上研修に参加している200名のうち100人が三千円寄付に賛同し協力してくれれば、総計30万円。墓守の為にマニラ市のしかるべき組織から補助してやってくれないか。「何もしないで帰国できない。」そう思いました。

私は仲間と相談しながら、すぐさま各グループリーダーに訴えました。その計画を主催者団体にも報告しました。すぐにその活動は中止するように指示がありました。「日本とフィリピンの国民感情はまだ複雑です。日本に対する恨みの思いもあるのです。もっと将来を見据えて時を待ってください。」とのことでした。哀しい計画の頓挫でした。私のこの経験は、現在の今の自分の考え方の柱になっています。WINコンコードを通じて、人材育成の面で少しは協力できる立場に現在立っています。

北朝鮮問題、韓国関係問題、中国・アメリカの関係、「その時の目先の情感に惑わされてはいけない。未来は次の世代の話し合いの結果導きだされてくる事だと信じよう。」とつくづくそう思っています。それと同時に日本が戦後七十余年間、戦争も無く平和に過ごせていることを有難いことだと深く感謝し今を生きています。

いつまでも続きますように!

2018年度 活動経過

4月 1日	新入生歓迎お花見	和歌山城
5月 26日	WINコンコードニュースレター 28号発行	
5月 27日	第10回 NPO 法人 WIN コンコード 総会・交流会	華月殿
6月 10日	白崎海岸とピアノコンサート	
6月 23日	先輩・現役留学生交流会	
10月 6日	第27回留学生故郷を語る集い (後期新入生歓迎会) WIN 事務所	
10月 14日	東京芸術大学特別公演～オペラへの招待状～「魔笛」	県民文化会館
11月 10日	高野山・丹生都比売神社	紅葉狩り
11月 24日	柿狩りとハイキング	かつらぎ町
11月 25日	大学祭模擬店へ協力	大学キャンパス
12月 22日	お餅つき	新堀こども園
12月 23日	八朔狩り・鍋パーティー	WIN 事務所
1月 1～7日	お正月体験	
1月 19日	会社見学	(株)島精機製作所
3月 28日	卒業生の結婚お祝い会	WIN 事務所

年 間

- ・就職活動に向けた勉強会
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・留生活活動(記念アルバムの作成・大学祭の模擬店協力)
- ・ホストファミリーとしての支援

新留学生紹介

楊 梅 (中国)

私は中国の鄭州大学から参りました。名前は楊梅です。和歌山大学の教育学部の交換留学生で、今は三年生です。

私は日本に来て、すぐにひとり暮らしの生活に慣れた。私は中国で毎日同じ人を見たり、同じことをしたり、同じご飯を食べたりすることにもう飽きている。何もしないのに、心身が疲れていた。でも私は日本で毎日、中国各地、世界各国の人を見て、話しかけて今まで正しいと思っていたことが変わった。疲れを全然感じなくて、毎日楽しみにしている。

大都市より、私は田舎の景色が好きです。私と和歌山の相性がいいと思う。

日本にいろいろなルールがある。ゴミをやたらに捨てるのはいけない、道路横断はいけない。だからこそ環境はきれいになって、交通の秩序が守られている。

でも、ちょっと毎日買い物の時に現金を使うことは私にとって、あまり便利ではない。中国で若者はほとんど現金を使わなくて、スマホで全然OK。

中国と日本はアジア人だから、文化の共通点が多くて、お互いにわかりやすい。でも違うところも多くて、それは面白い。

外国の文化が理解できない時、意地を張らず社会と人を観察し、独立した考えによって自分の判断が出来る。心も穏やかになる。

言葉と文法不足を痛感し、伝えたいことを自分の思う通りにうまく伝えられない。一日も早く日本語を上手に使い、日本人と日本文化をもっと知りたい。先日遠足に行き、山頂から見た眺めは良くて、とても美しい景色だった。私はきれいな桜を見た時、涙が溢れるほど感動した。いつもテレビで見る話とかシーンとか、自分自身が体験できるとは思わなかった。

グラセラ (インドネシア)

皆さん、初めまして私はインドネシアから来たセラと申します。私は初めて日本に来て、既に5か月ぐらい経ったと思います。その5か月日本にいるうちに私は既にたくさん経験をしました。

その一つは、秋の時のことです。インドネシアには秋という季節がありません。インドネシアはただ2つの季節があり、乾季と雨季です。そのため、紅葉を見る経験がありませんでした。しかし、日本で初めてそれを見られて、本当にうれしいです。紅葉の葉っぱがすごくきれいで、どこに行っても絶対それを撮ってしまいました。大体の紅葉は神社やお寺などがあるので、日本の世界遺産の美しさを楽しみつつ紅葉を見るのがおすすめです。

それだけではなく、冬の時はとても寒いですが楽しい時期だったと思います。なぜかというところ、私は暑い国から来たので、雪を見るのが初めてだ



からです。冬の際は何枚服を着てもまだ寒いと感じるから、とても大変なことのひとつだと思います。

日本にいるうちに、ただ季節ばかりのことだけではなく、留学生活の日々は、私はいろいろなイベント、交流会などに参加したので、たくさん新しい友達と経験ができました。その結果、留学生活は楽しく過ごせました。

アリウンサナー (モンゴル)

皆さん、はじめまして。アリウンサナーと申します。難しければアリと呼んでも大丈夫です。モンゴルから参りました。どうぞよろしくお願いたします。

和歌山大学のシステム工学部の3年生へ編入しました。編入学生ですから、すぐ日本人の学生と一緒に日本語で専門の授業を受けます。そのとき、先生の話がわかるかな、また、わからなかったら誰か助けてくれるかなと心配していました。でも、本当に親切な和歌山の人々のおかげで、今は全然問題なく、楽しくてうれしい生活を送っています。

私の目的は、日本の優れた技術を学んで帰って、国の発展に貢献することです。和歌山大学に入ったのは私にとって自分の目的を実現するための一歩だと思っています。また、この2年間で、勉強だけではなく、和歌山の自然の美しさを楽しんでいるところを旅行したり、日本の文化も学んだりしようと思っています。

ヴェュー (ベトナム)

初めまして、ベトナムのハノイから来たヴェューです。

自分は社交的な人だと思います。趣味はアニメや映画を見ることです。日本といえば、アニメだと思った時がありました。アニメでたくさんの作家からいろいろな話が知られて、すごく美しい画像を通じて、様々な意味を習って私自身の考え方や生き方を変えました。アニメがないと、今日の私がいなかったぐらいです。音楽はボーカロイドの音楽が好きで、特にボーカロイドと EDM が一緒に使われる曲です。それらの曲を聴くと自分の力があふれ出します。どんな悩みも忘れて、その時、していることに脇目振らずにできるくらいの集中力が生成される気がします。

今和歌山大学のシステム工学部の三年生として勉強していますが、自分はハノイ工科大学出身の学生です。ツイニング・プログラムという留学プログラムでここへきて勉強できることになりました。



た。母国では楽でしたが、日本の授業を受けてから必死に頑張りました。何もかも日本語で、聞くのも読むのもほかの日本人の学生より遅かったです。そして、授業の知識が得られないときに、つまらないと思って、だんだん眠くなります。しかし、その理由だけであきらめると人生のすっごくいいチャンスを失ってしまいます。そこで、専門の日本語を改善することにして、眠くなくなる方法を身につけることに決めました。この先の道はつらいことがたくさんあっても、自分が越えられると信じたら奇跡が起こるはずですよ。

私は今年日本に来たのは人生初めてで、家族から離れて一人暮らしをするのも初めてです。正直、最初とても大変になってしまったかなと思いました。そこで、荷物をできるだけ十分準備していました。しかし、ここへ来てから日本の生活はそんなに大変ではないとわかりました。もし何かわからないことがあったら、すぐ WIN コンコードのみんなが説明してくれるとか、助けてくれます。皆様のおかげで、私、日本に来たから数日ばかりだったのに、たくさん楽しい交流イベントに参加できて、世界中の友達がいっぱいできました。大変おいしい食べ物も色々食べられました。

ぜひ来て友達になって日本の生活を楽しみましょう！

エイブラハム (ガーナ)

私は Abraham Kwaw です。ガーナ人です。私は高校で経済学を教えています。学校のカウンセリングチームの一員でもあります。

教師の仕事の他に、Economic Empowerment Club (EEC) という団体を運営しています。ガーナでは特に農村部の子供たちの就学率は約 70% で不登校の子供が多いです。両親がいないので、経済的に学校に行く余裕がなく、また、学校教育の

大切さを十分理解しない人々がいます。その子供たちのために、EECは社会活動を推進しています。将来、ガーナで障害児のために財団を設立したいと思っています。そのために、私は現在、和歌山大学で障害児のための特別教育研究プログラムを進めています。ガーナに障害児のための教育の基礎を築くことが私の夢です。

私はサッカーをするのが好きです。また、ガーナでは多くの素晴らしい観光地があるので、よく旅行をしています。暇なときは、ゴスペル音楽を聞くのも私の趣味の一つです。

私はWIN Concordが大好きで、私はメンバーであることを誇りに思います。

ケン (マレーシア)

クアラルンプールから来たケンです。飛行機で成田空港に着いて、新大阪駅に初めて新幹線で来ました。いい経験になりました。ですが、新大阪駅に着いた時にはとても驚きました。東京より寒かったです。すぐ上着を着て和歌山市まで先輩が連れて来てくれました。家がないのでジム先輩の家で一週間泊まりました。そしてやらなければいけないこと全部やりました。市役所に行くとか、銀行口座を作ることとかです。初めて自分の家を契約した時はすごく嬉しかったです。もう大人になったかなと思ったからです。しかしまだ19才なので、自分でインターネットも買えないことは残念です。

確かに、海外に行くため家族に会えないことは悲しいですが、寂しくはありません。1人のマレーシアの友達もいるし、先輩たちも優しいし、新しい日本人の友達ができたので安心しました。もうすぐ大学の生活が始まるので、いろいろなことに挑戦したいと思います。これからもがんばります。



ドブド (タジキスタン)

私はタジキスタンの地方出身です。日本はタジキスタンと共通する点が多くあり、高校の頃から日本に興味深かったです。来日して以来、初めて会った人との会話がこんな感じで進んでいきます:

-お国は?

-タジキスタンです。

-えっ?

このような会話が3年間ほぼ変わらずに続いています。その頃日本語もあまり分からず、母国について説明しようにもできませんでした。その時、母国について他人にもっと知ってもらいたいと思い、日本語を学び、日本の幼稚園をはじめ、高校や様々な交流会に参加し、プレゼンをして来ました。主に母国の魅力的なところを紹介し、相手が行きたくなるほど興味を持ってもらえるようにしています。

グーグルでタジキスタンと検索すれば、非常に自然に恵まれている国だとわかるかと思います。富士山より2倍ほどの高い山から流れて来ている川や透明な湖など、自然が好きな方々に好まれています。また自然だけではなく、料理も国の魅力の一つであると考えています。今まで多くの国の料理を食べてきましたが、やはりタジキスタンの料理が一番だと思っています。あんなに美味しいのに、誰にも知られていないのは非常に残念なことだと思います。

また、タジキスタンは長い歴史を持ち、非常に興味深いです。シルクロードの中心であったタジキスタンは、多くの国々に知られていました。他国と違い、タジキスタンの文化、昔からの伝統などが消滅していないので、歴史に興味のある方はそれを学んだり、実際に体験すると面白くなるかと思われま。

日本にいる間、勉強だけではなく、様々な活動に参加し、頑張っていこうと思っています。タジキスタンの魅力を皆に伝えられたらと思っています。

メリッサ (オーストラリア)

初めまして、オーストラリアから来たメリッサと申します。日本語交換留学生として和歌山大学で勉強しています。マレーシアで生まれて10年前にオーストラリアのパースに移り住みました。うちの家族のように、オーストラリアには家庭を築く外国人が多いです。この理由でオーストラリアは「人種のるつぼ」(melting pot)と呼ばれてい

ます。しかし、最初からこの名で呼ばれていた訳ではありません。

1788年に英国にオーストラリアの東海岸に植民地が建設されました。最初の植民船団が「ファースト・フリート」と呼ばれ、これはオーストラリアの始まりです。第二次世界大戦後、オーストラリア政府は新しい移民政策を導入し、ヨーロッパ人が移り住むのを促しました。オーストラリアの建設から「白豪主義」(White Australia Policy)という人種差別的な政策を導入していました。豪州とはオーストラリアのことで、白豪主義とは、先住民であるアボリジニや、白人以外の移民を排除して、白人だけのオーストラリアにするという政策です。しかし、1970年代に、ゴフ・ホイットラム首相はこの政策を転換し、人種差別的な政策を廃止しました。

この時代以降、社会全般としては多文化的な社会を目指して努力してきました。現在、オーストラリアの人口は約25,000,000人で全ての大陸の人がいます。多文化的な社会のため、オーストラリア人は、自分の国の文化や料理について聞かれたら、すぐ回答しにくいのです。ですから、機会があれば、是非じかにオーストラリアの独特な魅力を経験してください。

リヤナ (イギリス)

初めまして、私はリヤナと申します。イギリスから参りました。私は家族とリバプールに住んでいました。リバプールはビートルズの出身地であり、サッカーで有名です。私の母国の大学はセントラルランカシャー大学です。専攻はアジア研究と日本語です。趣味は漫画を描くこと、アニメを見ること、そして旅行することです。私の興味は日本の伝統文化と日本の戦国時代です。子供の時から、父と一緒に日本の侍映画を見ていました。このため、私は日本に来たかったです。

9月に初めて日本に来ました。家から引っ越したのは初めてだったので非常に緊張しました。しかし、私は日本での時間を楽しんでいます。たくさんの人と出会い、たくさんの友達を作りました。和歌山県の文化が好きなので和歌山大学で勉強することにしました。和歌山県は非常にきれいだと思います。高野山が一番好きな場所です。和歌山市に近いので高野山をおすすめします。来学期、和歌山県をもっと見たいです。

私が初めて日本に来たとき、非常にホームシックになりました。友達を持つことは私が日本での生活に慣れるのに助けになりました。次の学期に



新しい友達を作ることを楽しみにしています。

マイ (ベトナム)

「初めまして」ということを言いたいですが、改めて自己紹介をさせていただきます。ホーチミン市師範大学のホアン・クイン・マイと申します。四月から和歌山大学での短期交換留学生になりました。日本文化と日本の魅力的な特徴にはずっと幼少時代から興味を持っていましたが、大学に入って初めて言語的に日本語を深く勉強する意欲が出てきました。このことも今回の留学に繋がったきっかけでした。

来日して以来、様々な驚きに出会う機会が現れてきました。その中で最も心に残る印象を与えているのはやはり季節のことだと思います。ベトナムは一年中暖かい季候で平均の最低温度までも25度以下に下がらないので、もう2週間が経ってもなかなか和歌山の気候に馴染めません。ですが、ベトナムにない全ての春夏秋冬を体験できることを楽しみにしています。

また、WIN コンコードの皆様のおかげで、私たち留学生が和歌山市のシンボリックな存在だと言われている和歌山城でお花見に参加するチャンスがありました。アップダウンが多い所ですが、軽い運動感覚で行ける城という感じがしました。和歌山城で春は満開の桜を楽しみました。秋の西の丸紅葉庭園は、色鮮やかなスポットらしいので、日本にいる内にぜひ景色を見に戻ります。

今年四月からの1年間皆と仲良くできたら嬉しいと思います。日本に来てから今まで一ヶ月しか経っていないので、まだ生活が慣れていません。分からないことがたくさんあるかもしれないので、よろしく願いいたします。

ガーナ共和国

エイブラハム (ガーナ)

西アフリカの国ガーナはギニア湾の海岸に位置しています。東はトーゴ、西はコートジボワール、北はブルキナファソ、南は大西洋に囲まれています。ガーナは多くの美しい景色と豊かでダイナミックな文化遺産を持つ民主的な国です。面積と人口は比較的少ないけれどもアフリカ大陸の主要国の一つです。その理由は、金、ボーキサイト、マンガン、原油、ダイヤモンド、塩などの豊富な天然資源に恵まれていることと1957年3月6日に植民地支配から独立したサハラ南部の最初のアフリカの国だったことです。また、世界で最も素晴らしいココアと美味しいチョコレートを製造しています。

気候的には全土が熱帯に属し、ウェスタン州やアシャンティ州などの南東部は熱帯モンスーン気候に属しています。多量の降雨に恵まれ、熱帯雨林が広がっていて、ガーナ経済を支えるカカオはこの地域で栽培されています。

首都はアクラで、公用語は英語ですが、その他にアカン語、ダバニ語、エウェ語、ガー語などが使われています。

ガーナは豊かな固有の文化を持っています。ガーナ文化は多くの異なるガーナ民族の実践と信念が多様に混在しています。国の全ての部分で、文化遺産は宗教及び首長機関と密接に関連しています。様々な祭や儀式は首長とその一族を中心としており、収穫、結婚、誕生、思春期、死などの出来事によってもたらされます。

ガーナの約三千万人の人口は様々な民族、言語、宗教グループに及んでいます。最大のもはアカン族、ダバニ族、エウェ族、ガー族です。

アカンのアシャンティ族は最大の部族であり、母方及び母系の先祖を通じて血統を追跡できる西アフリカの少数民族の社会の一つです。彼等は手彫りの椅子やケンテ布などで有名です。



ケンテ布は綿でできていて、複雑な明るく細い模様で織られています。表象、デザイン、色が異なると異なる事物を意味します。ケンテ布はガーナの全ての布の中で最も有名です。ガーナの伝統的な国民の布であるケンテ布は特別なものとしてはアシャンティ王国、アカン族によって着用されています。ケンテ布は単なる布よりは重要なもので、それは歴史の視覚的表現であり、また、織物を通じて書かれた言語の形でもあります。

アカン族の人々は自分の名前を選ぶように、着用するケンテ布の色やデザインを選びます。人々の名前には歴史的な出来事や重要な首長、ことわざ、植物などいくつかの情報源があります。ケンテ布の色やデザインに意味が表しており、高い価値を象徴しています。

ガーナ人は伝統的な服装にさまざまな布を使います。異なる部族グループはそれぞれ独自の布を持っています。現代のガーナ風ファッションには、アフリカや世界のファッションシーンに浸透してきた伝統的でモダンなスタイルの生地が含まれています。さまざまなケンテパターンが考案されており、それぞれ伝統的に特定の概念または一連の概念に関連付けられています。

ガーナにはケープコースト城、カクム国立公園、ボルタ湖、パガ・ワニ園などの観光地があり、多くの人々が訪れています。



私の故郷モンゴル

エンフバヤル（モンゴル）

昨年の4月に初めて日本に来てから、僅か1年の間とはいえ、たくさんの日本人や海外からの留学生に出会い、様々なことについて話し合える機会ができて誠に嬉しいです。特に、世界では「チンギスハン」という何百年も前に既に亡くなった偉人の名前以外ではあまり知られていない自分の国について、本当のモンゴルについて話すことができました。しかし、そうして祖国の話をしていくうちに、まだ自分が知らないことが山ほどあって、それも本当に基本的なことでも話せなくて非常に恥ずかしくなるときもありました。例えば、「モンゴルはどこにあるか」という意外にもシンプルな質問をされたときでした。留学生なら誰でも似たような質問を何回も聞かれるでしょう。それで、私は次のように答えていました。「モンゴルは東アジアにあります。ロシアと中国は分かりますね。具体的に言えばモンゴルはその二つの大国の真ん中に、まるで挟まれているように位置するのですよ」と。こんなふうに答えたら普通の人ならだいたい分かりますね。しかし、ある日「普通でない人」にその質問をされました。ゼミの先生です。同じように答えました。先生は「えっ、そうだったのか？ 僕全然知らなかったよ。それじゃ、ロシアは一体どこにあるの？」と聞き返しました。

「えっ、ロシアは当然ロシアにあるでしょう。何を聞いているのかこの人？」と、私は呟きました。地球科学を勉強しながら、そんなシンプルな質問にも正しく答えられなかったのです。

正しくはこうです。「皆さんは世界地図でアジア大陸を見てみると、東から西まで大きく広がる乾燥した地域があるでしょう。例えば、アジア高原西部にはイラン高原があり、そこから西に行くと、ユーラシア大陸の中央部にはチベット高原が位置します。それでチベット高原から北の方、海拔約1500mくらいまで降りて来たところで、東アジア北部、モンゴル高原に着きます。そこは、ほぼ何千年も前からモンゴル族が暮らし続けてきた領域であります」と。システム工学部の3年生だし、少なくともこの程度の答えを言わないと話が全く前に進まないでしょう。

次に自然風景のお話をしたいと思います。モンゴル国の自然風景と言うと、目に浮かぶのは確かにどこまでも果てしなく広がる緑の草原や「その



中に馬で走るモンゴル人の姿」でしょう。

和歌山で初めての留学生歓迎会の時にも「馬に乗って学校に通っていませんか」と優しく聞いてくるおばさんにも会いましたが、それは無理もないですね。確かにモンゴルの東北部から西部までは、まだ伝統的に遊牧をし続けている家族が多くいます。遊牧民の生活には乗馬が不可欠だと皆さんが思われるのも当然でしょう。ですが、近年はやはり車やモーターバイクを日常的に使います。また国の東南部、ゴビ砂漠と呼ばれる地域では、夏5月下旬から9月の間、水分をたっぷり吸収した土地は、豊かな草地に姿を変えます。そのため、そこでも牧畜をしながら生活する人々がいます。ただし、その人々の話によると、近年砂漠化の急激な進行で、牧草地の範囲が随分狭くなっていることが分かります。要するにモンゴルも地球温暖化の影響が最も激しい国の一つになってしまっているという事でしょう。もともと国で土木を勉強していた私ですが、環境分野に逃げ出し、和歌山大学にたどり着いたのも、やはり、どうしても地球温暖化に対して当事者意識を持ちたかったからです。

それでやっと気が付いたことがあります。それは何かというと「皆さんがご存じのモンゴルと、僕が知っているモンゴルにはやはりずれがあった」ということです。「だからこそ自分の国についてきちんと説明をしよう」と決断したのが、今回私がお話するきっかけになりました。国にいと気がつかないことを知り、国を離れ日本にいる今こそ、改めてモンゴルのことを詳しく勉強しなおして、これからも日本の方々や他の留学生達に正しく伝えていきたいです。それと同時に、今自分が住んでいる日本についての知識を周囲の皆さんから学び、モンゴルに帰ったあと、日本についても正しく伝えられるようにしたいと考えています。





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われ
ます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>